
本日、無常なり

アケザキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

本日、無常なり

【Nコード】

N89570

【作者名】

アケザキ

【あらすじ】

オリジナル小説、短編集。（物置き集？）

時々、詩も入ります。

アケザキ・ワールドへようこそ。

どなたでも、感想を書ける様にしてあります。

初めに。

こんにちは。アケザキです。

今回の小説は、ちよっとした短編集として書いて行こうかなと思っています。

初のオリジナル小説です。

私は元々、別の小説を書いているのですが、他に小説のアイデアが思いついたので、短編集として載せて行きます。(他には詩とかも入れると思います。)

もしかしたら、この中から連載小説にする事もあるんじゃないかと思います。その時はまた、何かしようと思っています。

更新につきましてはかなり遅いと思います。

ご了承くださいませ。

初めに。(後書き)

かなり遅い更新は遅いと思いますが、よろしくお願ひします。

詩：本日は“真”に晴天なり（前書き）

この物置き集、初投稿作品になる詩です。

色々と恥ずかしいところもありますが、自分の感覚を大事にして創りあげました。

それでは、どうぞ

詩：本日は“真”に晴天なり

今日も私は空を見る。

今日も私は空を見上げる。

見ている空には何も無い。

見ている空はただ蒼い色が染まっているだけ。

何処までも、ただ何処までも、

蒼い色が広がっているだけ。

透き通った蒼い色が一面に広がっているだけ。

ただただ蒼い色が広がっているだけなのに、

私の目が、躯が、心が、魂が、

その蒼に溶けていく。

ああ全ての人々が、この感覚を忘れてしまっているのだろうか……

今日も私は空を見上げる。

……本日は晴天なり。

詩：本日は“真”に晴天なり（後書き）

いかがでしたか？

凄く拙い文章ですみませんでした・・・。

これ掲載している時は既に、試験勉強真っ只中で頑張っている頃・・・。

感想お待ちしています。

ありがとうございました。

2010年、11月21日。

短編話・ある少女の朝（前書き）

よくある日常のひとつまを切り取ってみました。

グダグダクオリティーですが、どうぞ。

短編話：ある少女の朝

チユンチユン……………。

あるマンションの一室の、平日の朝6時頃の事。

？「美雪ー！朝よ！起きなさい！！」

少女、美雪の一日は此処から始まる。

~~~~~

美「ふあ~~~~つ。お母さん、おはよー…そしておやすみ…  
…。」

母「こらー！二度寝しないでさっさと起きなさい！」

美「……………けちい~~~~……………」

ゆっくりと掛け布団から出る美雪（14歳）。

母「今日は部活の朝練あるんですよ。行かなくていいの？」

美「……………いつけね、忘れてた。」

美雪は吹奏楽部に所属している。今日は部活の朝練がある日なのだ。その事を母親に言われるまで忘れてた美雪。

母「朝ごはん出来ているから、顔洗ってきなさい。」

美「ふあーい。」

- 洗面所 -

バシャバシャ・・・バシャバシャ・・・

美「（ハアア。さっぱりした。）」

バタンツ！！

父「美雪！おはよう！！朝だよ朝だよ！！」

美雪の父親、洗面所のドアが開くと共にハイテンションで登場。

美「朝っぱらからうるせえよ。」

父「え？何が何が？」

足をドタドタと鳴らしながらハイテンションで美雪に近づく父。

美「あーもーっ！！朝っぱらからその『ドタドタ』止めてくんない！！うっとうしいし、下の部屋の人達に迷惑でしょ！！」

美雪は父親に半ばキレながら注意するが、当の父親は。

父「えーっ！？美雪はお父さんの事嫌い？嫌い？嫌い？」

と、しつこく言ってくる。

思春期に入り反抗期を迎えた娘にとって、このしつこさはストレス



母「気にするあんたもあんたよ。あーゆーのは気にしない方がいいから。かまって欲しくてやってる事から。」

お母さんはそう言うが、美雪は。

美「ヤダ。あの親父マジ最悪。うっとうしいすぎ。」

と、まだ愚痴っていた。

ちなみに、このやり取りは朝練があるたびに起こっているため、最早日常風景の一つとなってしまうている。

母「さ、気持ち切り替えて朝ごはん食べなさい。」

美「・・・はい。いただきます。」

そして美雪は朝ごはんを食べはじめた。

- 美雪の部屋 -

朝ごはんを食べ終えた美雪は歯磨きをしたあと、自分の部屋で制服に着替える。

コンコン。

母「美雪。ちょっといいかしら。」

美「何？お母さん。」

母「はい、部活で使うタオル。忘れてたでしょ？」

母は美雪にハンドタオルを渡す。

美「あ、ありがとう。（危うく忘れるところだった……。）」

美雪は母親からハンドタオルを受け取り、鞆の中に入れる。

美「じゃあお母さん、行ってきます。」

母「行ってらっしゃい。気をつけて行くのよ。」

美「わかってるって。」

美雪は鞆を持ち、部屋を出た。

- 玄関 -

美雪は靴を履き、ドアノブに手をかける。

美「いってきまーす。」

父「はい。気をつけて行くんだよ。」

美「わかってるからー。」

ボタン。

そして美雪は外に出た。

- 外廊下 -

美「うわぁ・・・!!今日は凄い綺麗に晴れたなぁ・・・!!」

美雪は空を眺めた。

美「（今日は何かいいことありそう・・・!!）」

美雪はそう思いつつ、学校に登校していった・・・。

終わり

短編話：ある少女の朝（後書き）

以上です。

この美雪の話は、ほぼ私の実体験が元になっております。（私は中学生のときに、吹奏楽部に所属していました。）

思春期ということもあり、お父さんは成長していく娘にかまって欲しくて、朝からこうしているんだと思いますよ。

・・・・・・・・多分。

（美雪の父親ほどでは無いですが、私の父親もかまって欲しさでこう接して来ます・・・・・・・・。良いところも在るんですけどね・・・・・・・・。）

そんな日常のひとコマを、最後まで読んでくださった皆様、ありがとうございました！！

2010年12月17日。

寒い外の暖かな空の色と共に。

詩…「……夢よ。」（前書き）

「……私は今日も夢をみる。」

詩…「…夢よ。」

夢うつし。

夢うつし。

夢の夢のそのまた夢よ。

…私は何処に立っている？

…私は大地に立っている。

夢うつし。

夢うつし。

夢の夢のそのまた夢に、

…私は大地に立っている。

…地に足をつけ立っている。

夢うつし。

夢うつしつ。

夢の夢のそのまた夢よ、

・・・私は何故立っている？

・・・何故私は此処にいる？

夢うつしつ。

夢うつしつ。

夢の夢のそのまた夢よ、

・・・何故私は此処にいる？

・・・此処で何をすればいい？

夢うつしつ。

夢うつしつ。

夢の夢のそのまた夢は、

・・・私に何も答えない。

・・・私に何も語らない。

夢うつつ。

夢うつつ。

夢の夢のそのまた夢で、

・・・私は悟る。

・・・いや、悟ってしまった。

地に足をつけ立つ事は、

何があっても生きるといふこと・・・。

つらい事があっても、

くるしい事があっても、

・・・夢（此処）で地に足をつけ立っている限り、

生きていかなければいけないということ・・・。。

そして私は今日もまた、

目を醒まし、生きていく。

詩：「……夢よ。」（後書き）

寒い日が続きますね……。

ども、アケザキです。

こちらの「本日、無情」では、久々の投稿となります。

いやぁ……本当に寒い日が続くと辛いです……（特に、学校に行くときとか）。

さて、今回の詩「……夢よ。」いかがだったでしょうか？

一応、今回のテーマは「自分の命とは何か？」にしているんですよ。

「命」って何かこう……何処か儚くて、大切なものとみんな知っている。なのに見落としがちだと思っんですよ。

ましては「自分の命」とは何か？……今回の詩はこれを伝えたいんです。

この詩を読んで、もう一度「自分の命とは何か」を考えていただけたら幸いです。

けれどまだまだ拙い文章能力なので、伝わりづらかったら本当にごめんなさい……。

2011年1月22日。

凍てつく様な寒さと昼を暖かく照らす太陽、  
そして夜を静かに見守る月と共に。

詩：「エゴイズム」（前書き）

前回投稿した「・・・夢よ」の別バージョンです。

作りは一緒ですが、テーマにしているものは違います。

どしどし。

詩：「エゴイズム」

エゴイズム。

エゴイズム。

人は何かしらのエゴイズムを持っている。

私も持っている。

エゴイズム。

エゴイズム。

人はエゴイズムを持ち、それをふるう。

私もふるう。

エゴイズム。

エゴイズム。

エゴイズムは人を縛る。

自分を他人を世界中を。

エゴイズム。

エゴイズム。

エゴはみんなを巻き込んで、何処へ向かおうとしているのか・・・。

エゴイズム。

エゴイズム。

何でみんなは争うの・・・？

何でみんなはいがみ合うの・・・？

ドウシテワカリアエナイノ・・・？

エゴイズム。

エゴイズム。

今日も人はエゴで動く。

私もエゴで動いてく。

- - - 世界中が動いていく。

みんな・・・みんな・・・みんな。

詩：「エゴイズム」（後書き）

アケザキです。

今回は『エゴイズム』というタイトルで投稿させていただきました。

テーマは「エゴとエゴ」。

観点は「自分から見たエゴとの関係」です。

「・・・夢よ。」の別バージョンというコンセプトで書きました。

ただし、伝えたい事は違います。

「・・・夢よ。」では“命”をテーマにしましたが、この『エゴイズム』は“エゴ”とはなんだろうという思いから書いた作品です。

その違いを感じながら読んでいただけると幸いです。

2011年2月11日。

漆黒の夜に舞う白雪と共に。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8957o/>

---

本日、無常なり

2011年10月8日04時39分発行